



平成26年度
機械工業振興補助事業
公益事業振興補助事業
補助事業実施に関する事務手続要領
別冊 「補助事業評価事務手続要領」

公益財団法人 J K A

はじめに

はじめに1

I JKA 補助事業の評価について2

II JKA 補助事業評価の手順3

III 自己評価の実施4

1. 自己評価の流れ4

2. 自己評価の実施5

3. 自己評価結果の提出（Eメール）6

IV 自己評価書の記入にあたって7

【事前計画／自己評価書（4／5）】 記入例・作成の注意事項8～

機器・検診車・福祉車両の整備8

イベント開催10

事業・サービス12

調査・分析・研究開発14

調査・分析・研究開発（研究補助）16

建築・補修18

【事前計画／自己評価書（5／5） 事業の促進・阻害要因の自己分析】

記入例・作成の注意事項 20～

V 平成26年度 JKA 補助事業 「自己評価スコアリングガイド」 22～

標準※研究補助除く22

研究補助用24

（書式見本） 事前計画／自己評価書 26～

事前計画／自己評価書（1／5）～（3／5）26

※ 補助金交付申請時に作成

事前計画／自己評価書（4／5）～（5／5）27

※ 自己評価時に作成

本財団では、JKA補助事業の透明性、効率性を確保するとともに、JKA補助事業の更なる向上を図るため、外部の学識経験者及び有識者からなる機械振興補助事業審査・評価委員会及び公益事業振興補助事業審査・評価委員会（以下「審査・評価委員会」という。）を設置して、JKA補助事業の評価を行い、その結果を公表することとしています。

補助事業者には、補助事業完了後、事業の実施状況及び「事前計画」で設定した指標及び目標値等の達成状況を「自己評価書」により自ら確認・評価していただきます。

「自己評価」では、事業の実施結果、成果の測定・確認にとどまらず、その要因（なぜ事業をうまく実施できたのか、あるいは何が問題で計画通りに事業実施ができなかったのか。）も併せて確認・分析することで、事業の課題等がより明確になりますので、結果を補助事業者自らの今後の事業の改善等に役立てていただければ幸いです。

本財団は、補助事業者の「自己評価」を基に、JKA補助事業の評価を行い、JKA補助事業全体の改善、向上に役立てます。

- 「自己評価」は、後述のとおり「事前計画／自己評価書」により行っていますが、「事前計画／自己評価書」に記入された内容は、補助事業改善のための統計資料等に使用するとともに、評価結果は公表の対象となりますので、作成にあたっては、次の各点にご留意ください。
 - ・ 内容を簡潔かつ明確に、過不足なく記入するようにしてください。
 - ・ 専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用し、初めて読む方にも理解し易い説明、文章を心がけてください。

- 成果の広報について
補助事業者自ら、補助事業の成果について十分な広報に努めるとともに、JKAが行う補助事業の成果発表（審査・評価委員会等におけるプレゼンテーション、補助事業広報誌掲載等）や補助事業アンケートへの回答等、成果の広報にご協力くださいますよう、お願いいたします。

問 合 せ 先	公益財団法人 JKA 補助事業部 企画・評価課 〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6
電 話	直通 03-3512-1279
	FAX 03-3512-1274
問合せ時間	平日の 9時30分から12時まで 13時から17時30分まで
URL	http://ringring-keirin.jp
Email	m26hyoka@keirin-autorace.or.jp(機械工業振興 専用) p26hyoka@keirin-autorace.or.jp(公益事業振興 専用)

I J K A補助事業の評価について

1. 目的

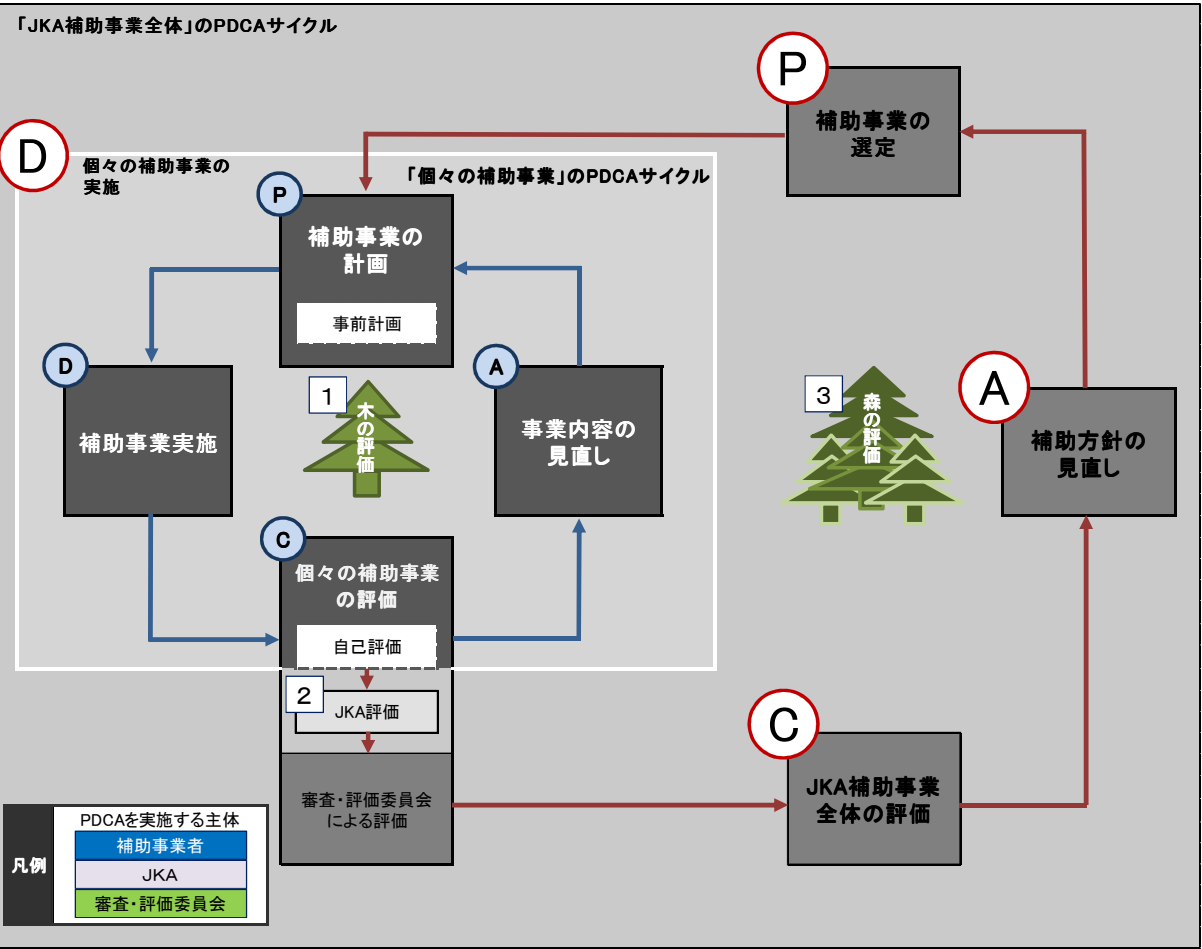
J K A補助事業の評価は、個々の補助事業者が補助方針に沿って行う事業や活動に対して、その補助事業の内容の結果・成果を検証し、補助事業の改善と発展を目指します。また、評価結果をとりまとめて公表することにより、社会的な説明責任を果たす一助とします。

2. 実施方法

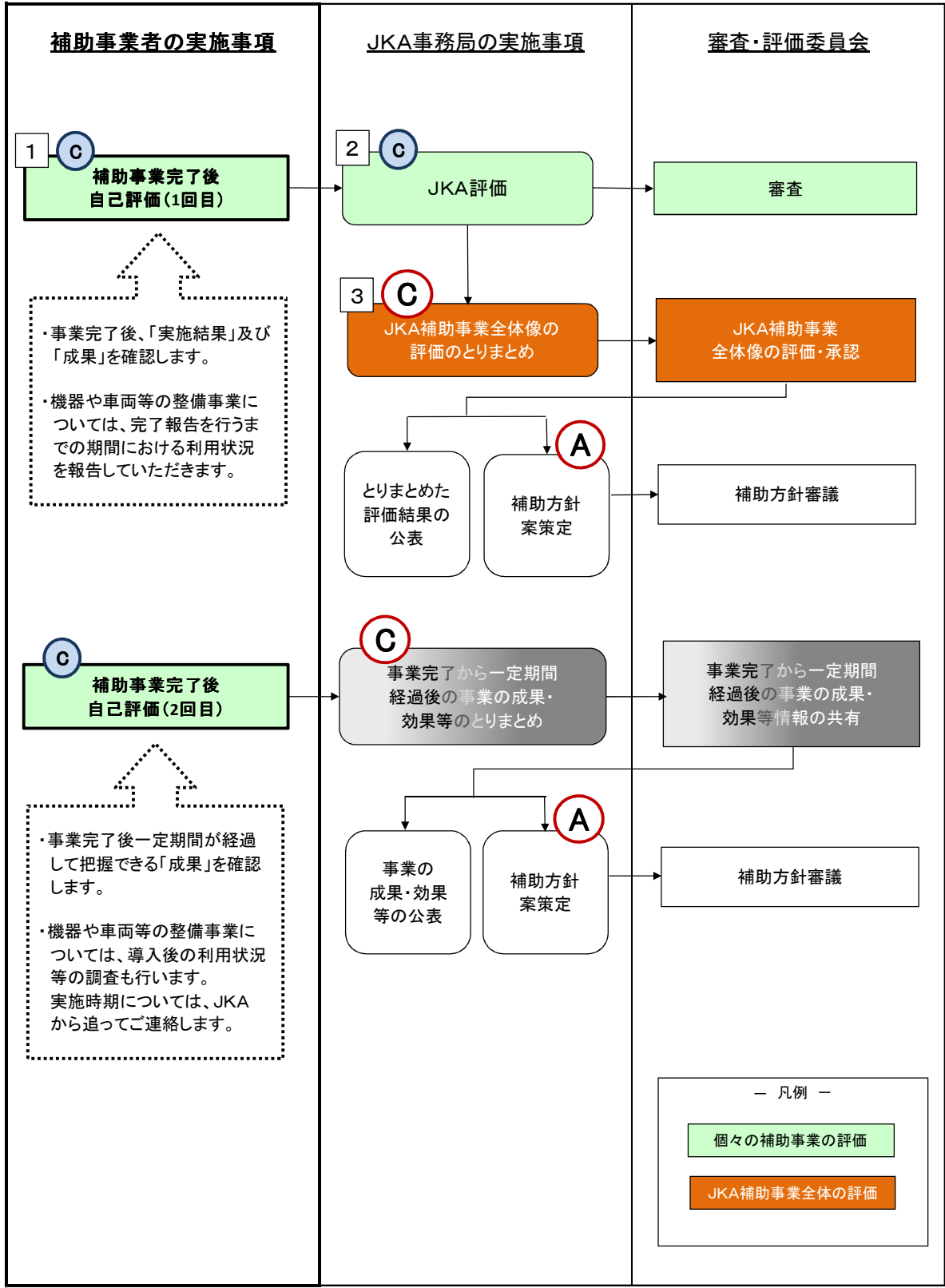
下に示す「木」の評価と「森」の評価の2つの枠組みで評価を行い、それぞれにP D C Aサイクル※を回すことにより補助事業全体の向上を図ります。

1 木の評価	個々の補助事業者が、予め定めた事前計画を事業完了時にどの程度実現できたか、その促進・阻害要因を把握し、目標達成状況等を自ら評価するものです。
2 J K A評価	J K Aが、木の評価（事前計画／自己評価書の内容）等をもとに、事業の達成状況や広報状況を評価するものです。
3 森の評価	木の評価及びJ K A評価をもとに、事業分野を取り巻く課題の整理・検証を行い、J K A補助事業の改善と発展を目指すための評価です。

※ P D C Aサイクルとは？
計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Act）のステップを繰り返すことによって、継続的な業務改善を推進するマネジメント手法です。

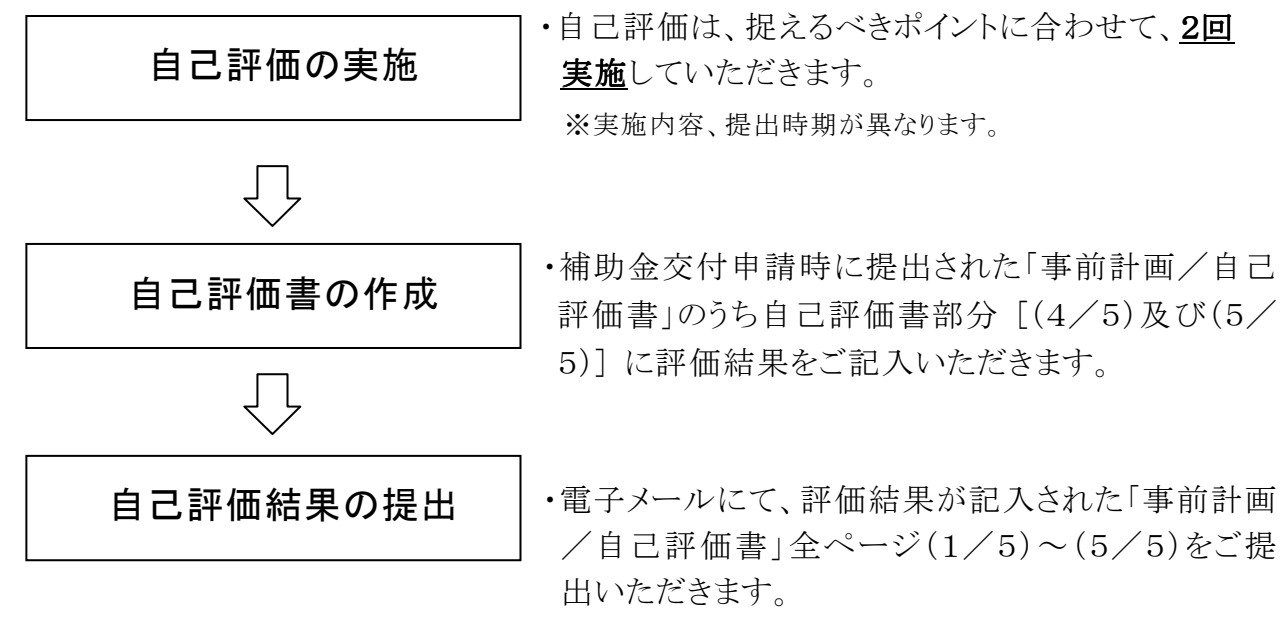


II J K A補助事業評価の手順



III 自己評価の実施

1. 自己評価の流れ



*** 自己評価実施にあたっての注意事項 ***

1. 「事前計画」との対比
- 自己評価は、「事前計画」と実際の事業の実施状況を対比して実施してください。
止むを得ず、補助金交付申請後に事業計画を変更した場合は、別に提出した「事前計画/自己評価書[計画変更用]」と対比してください。
2. 非数値の指標と目標値の達成状況
- 評価項目の性格上、数値で表現できない指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。
3. 採点欄のある評価項目
- 採点欄のある評価項目は、各人の主観で採点するのではなく、P22～25 の[平成 26 年度 JKA 補助事業「自己評価スコアリングガイド」]を基準に採点してください。
4. 評価体制
- 評価は、補助事業に係わる特定の担当者や組織だけではなく、なるべく利用者や参加者などの幅広い受益者、外部の第三者なども加わって行われることが望まれます。
※「評価委員会」が組織されることがより望ましいです。
特定の関係者のみで自己評価を実施しなければならない場合でも、それ以外の関係者に対して、ヒアリングやアンケートを実施するなど、信頼できる自己評価に努めてください。
5. 評価過程の記録
- 評価にあたっては、議事録の作成、アンケート結果を集計する等、評価過程を必ず記録してください。（自己評価結果の提出の際には、この記録も併せてご提出いただきます。）

2. 自己評価の実施

自己評価		1回目 (自己評価Ⅰ)	2回目 (自己評価Ⅱ)
実施 作成	評価時期	事業完了後	平成28年3～6月(※4)
	評価内容	① 補助事業の実施状況、事業の実施結果及び事業完了後完了報告を行うまでの期間に発生する成果(改善効果等)を確認し、 <u>事前計画と対比して評価</u> する。 ② <u>事業の促進・阻害要因の分析</u> を行う。	① 事業完了から一定期間経過後の補助事業の成果・波及効果を確認し、 <u>事前計画と対比して評価</u> する。 ② 「補助事業の目的(直接的な目的)」、「社会的課題の解決等(補助事業が最終的に目指すこと)」への貢献、達成状況を評価する。
	評価書式 (※1)	事前計画／自己評価書 (4／5)・(5／5)	事前計画／自己評価書 (4／5)
提出	提出時期	事業完了後 2 ヶ月以内	平成28年3～6月末まで(※4)
	提出書類 (※2)	・事前計画／自己評価書 (1／5)～(5／5) ・評価過程の記録	・事前計画／自己評価書 (1／5)～(5／5) ・評価過程の記録
	提出方法	Eメール・郵送 (※3)	Eメール
	提出先	補助事業部 機械工業振興事業課 公益・福祉振興事業課 <u>担当者アドレス</u>	補助事業部 企画・評価課 (機械工業振興補助事業専用) <u>m26hyoka@keirin-autorace.or.jp</u> (公益事業振興補助事業専用) <u>p26hyoka@keirin-autorace.or.jp</u>

- (※1)・「事前計画／自己評価書」は、5ページ構成で、(1／5)～(3／5)については、補助金交付申請時に既にご記入いただいています。
- (※2)・複数の事業項目から構成される事業を実施した場合は、それぞれの事業項目毎に、提出書類を作成し、提出してください。
・補助金交付申請後に、止むを得ず事業計画を変更した場合は、別に提出した、「事前計画／自己評価書(3／5)[計画変更用]」も併せて提出してください。
- (※3)・1回目の評価結果(自己評価Ⅰ)はデータをEメールに添付して提出していただくほか、プリントアウトしたものを「補助事業の完了報告書」に添付して提出してください。
- (※4)・研究補助事業の複数年研究の場合は、平成29年の同月になります。

3.自己評価結果の提出（Eメール）
メール件名・添付ファイル名の付け方について

		1回目	2回目
メール件名		自己評価 1	自己評価 2
添付 ファイル名	事前計画／ 自己評価書	整理番号 評価 1 補助事業者名 【ファイル名例】 26-999 評価 1 (一財)〇協会 26-9-999 評価 1 (福)〇福祉会	整理番号 評価 2 補助事業者名 【ファイル名例】 26-999 評価 2 (一財)〇協会 26-9-999 評価 2 (福)〇福祉会
	評価過程の 記録	整理番号 記録 1 補助事業者名 【ファイル名例】 26-999 記録 1 (一財)〇協会 26-9-999 記録 1 (福)〇福祉会	整理番号 記録 2 補助事業者名 【ファイル名例】 26-999 記録 2 (一財)〇協会 26-9-999 記録 2 (福)〇福祉会

・複数の事業項目から構成される事業を実施した場合は、下記の例にならい、添付ファイル名に通し番号を付して、提出してください。（下記は、2事業あるファイル名の例です。）

添付 ファイル名 【例】	事前計画／ 自己評価書	26-9-999 評価 1 (一財)〇協会 2-1 26-9-999 評価 1 (一財)〇協会 2-2	26-9-999 評価 2 (一財)〇協会 2-1 26-9-999 評価 2 (一財)〇協会 2-2
	評価過程の 記録	26-9-999 記録 1 (一財)〇協会 2-1 26-9-999 記録 1 (一財)〇協会 2-2	26-9-999 記録 2 (一財)〇協会 2-1 26-9-999 記録 2 (一財)〇協会 2-2

・補助金交付申請後に、止むを得ず事業計画を変更した場合に自己評価書に併せて提出する、「事前計画／自己評価書(3／5)計画変更用」の添付ファイル名は、以下の例に倣ってください。

26-9-999 事前計画(変更) (一財)〇協会

IV 自己評価書の記入にあたって

交付申請時に記入した「事前計画/自己評価書(3/5)」の事前計画を振り返り、自己評価を実施します。

次ページから、「事前計画/自己評価書(4/5)(5/5)」の記入例・作成の注意事項があります。

・(4/5)は要望申請時に選択した事業形態の分類項目別になっています。

・(5/5)事業の促進・阻害要因の自己分析は、全分類項目共通です。

自己評価書(4/5)

分類項目	ページ
【機器・検診車・福祉車両の整備】……………▶	8.9
【イベント開催】……………▶	10.11
【事業・サービス】……………▶	12.13
【調査・分析・研究開発】……………▶	14.15
【研究補助】……………▶	16.17
【建築・補修】……………▶	18.19

自己評価書(5/5)事業の促進・阻害要因 自己分析

全分類項目共通 ……………▶	20.21
----------------	-------

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)				
(2) 事業内容	事前計画(3/5)を振り返り、自己評価を実施してください。			
(3) 達成目標	事業の実施結果	〔指標〕 導入時期	〔目標値〕 平成26年9月	〔具体的内容〕 現在使用している車両のリース契約が9月末で終了するため、スムーズに10月から新しい車両で送迎が開始できるよう、9月中の導入を目指す。
	事業の成果・波及	〔指標〕 延利用者数(週平均)	〔目標値〕 80人	〔具体的内容〕 定員(8人)を満たし、毎日(25日:月～土)の送迎で使用する予定。
	事業の結果	〔指標〕 1.機関誌掲載回数 2.HP掲載回数 2.〇〇新聞掲載回数	〔目標値〕 1.1回 2.2回 2.1回	〔具体的内容〕 1.車両導入後、新しい車両の紹介記事を掲載し、関係者や公共施設等に配布する。 2.車両導入前と後の2回、誰でも目にできるよう、法人HPに掲載する。 3.車両導入翌月の〇〇新聞に事業の実施について掲載する。
(4) 情報発信	事業の結果	〔指標〕 1.機関誌掲載回数 2.HP掲載回数 2.〇〇新聞掲載回数	〔目標値〕 1.1回 2.2回 2.1回	〔具体的内容〕 1.車両導入後、新しい車両の紹介記事を掲載し、関係者や公共施設等に配布する。 2.車両導入前と後の2回、誰でも目にできるよう、法人HPに掲載する。 3.車両導入翌月の〇〇新聞に事業の実施について掲載する。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	〔指標〕 1.機関誌掲載回数 2.HP掲載回数 2.〇〇新聞掲載回数	〔目標値〕 1.1回 2.2回 2.1回	〔具体的内容〕 1～3. 上記の情報発信時には、常にオートレース補助金による事業であることを明示する。
(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	施設利用者等に聞き取り調査を行い、利用者や地域住民を含む評価委員会を開催し、車両の導入について評価を行い、法人機関誌にて公表する。			

自己評価に関するお問い合わせは、以下へお願いします。

補助事業部 企画・評価課

tel : 03-3512-1279

E-mail : m26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(公設工業試験研究所等)

E-mail : p26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(検診車・機器・福祉車両)

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価Ⅰ 〔事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施					注4 指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点を付けてください。 (例) 1. 4点(達成状況100%) 2. 1点(達成状況50%) 3. 4点(達成状況100%) (4点+1点+4点) / 3 = 3点 ※割り切れない場合は整数に切り上げてください。	総合評価点 採点 注4 この展望をこ
事業全体についての意見・所感						
優れている点・課題、改善すべき点						
その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点						
② 自己評価Ⅱ 〔事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施						
補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望	注9	この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。 (3/5)の目標値「平成26年9月」に対し(4/5)の達成値「平成26年8月」は遅れがなかったため、達成状況を100%とみなします。				
達成目標	① 自己評価Ⅰ 事業の実施結果	〔達成値〕 平成26年8月	〔達成状況〕 100%	〔具体的内容〕 計画よりも早い納車となったが、駐車場の整備、送迎サービス担当者とのシフト作成など、車両運給スタッフが中心となって準備し、安全の態勢で納車を迎えることができ、新しい車両での送迎サービスを開始した。	注1 注2 注3 注4	採点 4
	注5 事業の成果・波及	76人	95%	※指標に合わせて文頭に付番し、箇条書きで記入してください。	注3 注4	採点 4
	① 自己評価Ⅰ 事業の結果	〔達成値〕 1.1回 2.1回 3.1回	〔達成状況〕 1.100% 2.50% 3.100%	〔具体的内容〕 1.車両導入後、新しい車両の紹介記事を掲載し、関係者や公共施設等に配布した。 2.車両導入前には担当への連絡ミスで掲載できなかったが、導入後には法人HPに掲載した。 3.9月〇日〇〇新聞に事業の実施について掲載した。	注6 注7 注4	採点 4
情報発信	競輪・オートレース補助金による事業であること	〔達成値〕 1.1回 2.1回 3.1回	〔達成状況〕 1.100% 2.50% 3.100%	〔具体的内容〕 1～3. 上記の情報発信時には、常にオートレース補助金による事業であることを明示した。	注1 注2 注7 注4	採点 4
	① 自己評価Ⅰ 自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	注8	評価委員会を開催し評価を行った。評価結果の機関誌掲載は12月に行う予定。			注4

注1 達成値＝実績値です。事前計画(3/5)で設定した目標値と同じ単位のものが入ります。

注2 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合をパーセンテージで記入してください。

注3 実績の具体的内容をご記入ください。また、達成値、達成状況が数値で表せなかった場合ややむを得ずスコアリングガイド通りには採点を行わなかった場合などは、その根拠を具体的に記入してください。

注4 P22.23のスコアリングガイドを基に採点してください。

注5 自己評価(1回目)実施時に記入してください。

注6 情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注7 その事業が競輪またはオートレースの補助金を得て実施されたものであると明示して情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注8 自己評価の具体的な方法や手順、評価結果を公表したか否か、構成に第三者(外部委員など)が入ったのであればその旨記入してください。

注9 自己評価(2回目)実施時点で、事前計画(2/5)に記載した「補助事業が最終的に目指すこと」の達成状況と、そう判断した根拠を併せて記入してください。※自己評価(1回目)実施時点での記入は不要です。

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)				
(2) 事業内容		事前計画(3/5)を振り返り、自己評価を実施してください。		
(3) 達成目標	事業の実施結果	【指標】 参加者数	【目標値】 320人	【具体的内容】 募集期間を前年より1ヶ月延ばすことにより、講習会の参加者数が前年度実績(291人)の10%増になる見込み。
	事業の成果・波及	【指標】 参加者の満足度	【目標値】 80%	【具体的内容】 講座終了後にアンケートを実施し、前年度実績(75%)を超える評価を得る。
	事業の結果	【指標】 1. 業界紙掲載回数 2. 法人機関誌掲載回数 3. 法人HP掲載回数	【目標値】 1. 2回 2. 2回 3. 4回	【具体的内容】 1. 講習会開催前に参加者募集の告知をし、終了後にも結果を掲載する。 2. 講習会開催前に参加者募集の告知をし、終了後にも結果を掲載する。 3. 講習会開催前に参加者募集の告知をし、各回終了後ごとに結果を掲載する。
(4) 情報発信	競輪・オートレース補助金による事業であること	【指標】 1. 業界紙掲載回数 2. 法人機関誌掲載回数 3. 法人HP掲載回数	【目標値】 1. 2回 2. 2回 3. 4回	【具体的内容】 1～3. 上記の全てで、当該事業は競輪の補助金を受けて実施したものである旨を明記する。
	(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	講習会終了後、参加者にアンケートを行い、外部有識者も参加する評価委員会において補助事業について評価を行う。 講習会についての評価結果は、年度報告書に記載する。		

自己評価書に関するお問い合わせは、以下へお願いします。

補助事業部 企画・評価課

tel：03-3512-1279

E-mail：m26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(振興事業補助)

E-mail：p26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(事業費・新世紀未来創造プロジェクト・東日本大震災復興支援)

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価Ⅰ		〔事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施〕		注4 指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点をつけてください。 (例) 1. 4点(達成状況100%) 2. 4点(達成状況100%) 3. 2点(達成状況75%) (4点+4点+2点) / 3 = 3.33≒4点 ※割り切れない場合は整数に切り上げてください。	総合評価点 ↓ 採点 注4 の展望をこ
事業全体についての意見・所感		優れている点・課題、改善すべき点			
その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点		この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。 (3/5)の目標値「320人」に対する (4/5)の達成値「309人」の割合 ↓ 達成値／目標値＝達成状況 309／320＝96.6%≒97%			
② 自己評価Ⅱ	〔平均値を記入〕	注9			
補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望					
達成目標	① 自己評価Ⅰ	【達成値】 309人	【達成状況】 97%	【具体的内容】 前年度実績(291人)を上回ったものの、目標達成には至らなかった。原因は…と分析している。	採点 注4 3
	事業の実施結果	注1	注2	注3	採点 注4
	事業の成果・波及	85%	106%	注3	採点 注4 4
情報発信	① 自己評価Ⅰ	【達成値】 1. 2回 2. 2回 3. 3回	【達成状況】 1. 100% 2. 100% 3. 75%	【具体的内容】 1. 講習会開催前、6月に参加者募集の告知をし、全3回終了後3月に結果を掲載した。 2. 講習会開催前、6月に参加者募集の告知をし、全3回終了後3月に結果を掲載した。 3. 講習会開催前、6月に参加者募集の告知をし、第2回までは終了直後に結果を掲載したが、第3回についてはHPの改修に合わせ掲載するため未掲載。(〇月に掲載予定)	採点 注4 4
	事業の結果	注1	注2	注6	採点 注4 4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	注1	注2	注7	採点 注4 4
① 自己評価Ⅰ	自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	注8 評価委員会を開催し、評価を行った。報告書については、次年度5月に発行予定。			採点 注4

注1 達成値＝実績値です。事前計画(3/5)で設定した目標値と同じ単位のものが入ります。

注2 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合をパーセンテージで記入してください。

注3 実績の具体的内容を記入してください。また、達成値、達成状況が数値で表せなかった場合ややむを得ずスコアリングガイド通りには採点を行わなかった場合などは、その根拠を具体的に記入してください。

注4 P22.23のスコアリングガイドを基に採点してください。

注5 自己評価(1回目)実施時に記入してください。結果が出ていない場合も、その時点での状況を記入してください。

注6 情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注7 その事業が競輪またはオートレースの補助金を得て実施されたものであると明示して情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注8 自己評価の具体的な方法や手順、評価結果を公表したか否か、構成に第三者(外部委員など)が入ったのであればその旨記入してください。

注9 自己評価(2回目)実施時点で、事前計画(2/5)に記載した「補助事業が最終的に目指すこと」の達成状況と、そう判断した根拠を併せて記入してください。※自己評価(1回目)実施時点での記入は不要です。

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)				
(2) 事業内容	事前計画(3/5)を振り返り、自己評価を実施してください。			
(3) 達成目標	事業の実施結果	指標 相談件数	目標値 各期間平均200件	具体的内容 ○年度実績(190件)から算出。
	事業の成果・波及	指標 問題解決数	目標値 相談件数の8割	具体的内容 その後フォローアップを行い、全相談件数のうち8割の問題解決を目指す。
(4) 情報発信	事業の結果	指標 1. 市報掲載回数 2. チラシ配布枚数 3. HP掲載回数 4. 会報発行回数	目標値 1. 4回 2. 8千枚 3. 8回 4. 1回	具体的内容 1. 実施月の前に市報に相談を行う日時を掲載し、地域住民へ事業の周知をはかる。 2. ○○や△△などの公共施設等に事前にチラシを配布し、周知をはかる。 3. 毎回相談日時を告知すると共に相談件数や相談事例を発信する。 4. 法人機関誌に、事業終了後事業について掲載する。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	指標 1. 市報掲載回数 2. チラシ配布枚数 3. HP掲載回数 5. 会報発行回数	目標値 1. 4回 2. 8千枚 3. 8回 4. 2回	具体的内容 1～4. 事業の結果の情報発信に併せて、当該事業はオートレースの補助金を受けて実施したものである旨を明示する。
(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入	全事業終了後、外部有識者も参加する評価委員会において相談事業について評価を行う。 評価結果は、法人HPに掲載する。			

自己評価書に関するお問い合わせは、以下へお願いします。

補助事業部 企画・評価課

tel : 03-3512-1279

E-mail : m26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(振興事業補助)

E-mail : p26hyoka@keirin-autorace.or.jp

(事業費・新世紀未来創造プロジェクト・東日本大震災復興支援)

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価Ⅰ [事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施状況を確認する]				
事業全体についての意見・所感	この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。 (3/5)の目標値「平均200件」に対する (4/5)の達成値「平均203件」の割合 ↓ 達成値／目標値＝達成状況 203／200＝101.5%≒102%			
優れている点・課題、改善すべき点				
その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点				
② 自己評価Ⅱ [事業終了後、外部有識者も参加する評価委員会において相談事業について評価を行った。]				
補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望	注9			
注4 指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点をつけてください。 (例) 1. 4点(達成状況100%) 2. 3点(達成状況88%) 3. 4点(達成状況100%) 4. 4点(達成状況100%) (4点+3点+4点+4点)/4 =3.75≒4点 ※割り切れない場合は整数に切り上げてください。				
達成目標	① 自己評価Ⅰ 事業の実施結果	達成値 平均203件	達成状況 102%	具体的内容 相談件数は、1回目6月○日～○日198件、2回目9月○日～○日210件、3回目11月○日～○日205件、4回目2月○日～○日200件であった。
	注5 事業の成果・波及	4割	50%	現時点での相談件数に対する問題解決数は、1回目約7割、2回目約9割、3回目約2割、4回目約1.5割であるが、今後増加すると思われる。
情報発信	① 自己評価Ⅰ 事業の結果	1. 4回 2. 7千枚 3. 8回 4. 1回	1. 100% 2. 88% 3. 100% 4. 100%	1. 実施月の前に市報に相談を行う日時を掲載し、地域住民へ事業の周知をはかる。 2. ○○や△△などの公共施設等に事前にチラシを配布し、周知をはかる。 3. 毎回相談日時を告知すると共に相談件数や相談事例を発信した。 4. 4月1日～4月31日の間に法人HPに掲載した。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	1. 4回 2. 7千枚 3. 8回 4. 1回	1. 100% 2. 88% 3. 100% 4. 100%	1～4. 上記1～4の全てで、オートレースの補助金を受けて実施したものである旨を明示した。
① 自己評価Ⅰ 自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入		注8 事業終了後、外部有識者も参加する評価委員会において相談事業について評価を行った。(○月○日開催、別添「評価過程の記録」を添付)。 評価結果は、△月中に法人HPに掲載する予定。		

注1 達成値＝実績値です。事前計画(3/5)で設定した目標値と同じ単位のものが入ります。

注2 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合をパーセンテージで記入してください。

注3 実績の具体的内容を記入してください。また、達成値、達成状況が数値で表せなかった場合ややむを得ずスコアリングガイド通りには採点を行わなかった場合などは、その根拠を具体的に記入してください。

注4 P22.23のスコアリングガイドを基に採点してください。

注5 自己評価(1回目)実施時に記入してください。結果が出ていない場合も、その時点での状況を記入してください。

注6 情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注7 その事業が競輪またはオートレースの補助金を得て実施されたものであると明示して情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。

注8 自己評価の具体的な方法や手順、評価結果を公表したか否か、構成に第三者(外部委員など)が入ったのであればその旨記入してください。

注9 自己評価(2回目)実施時点で、事前計画(2/5)に記載した「補助事業が最終的に目指すこと」の達成状況と、そう判断した根拠を併せて記入してください。※自己評価(1回目)実施時点での記入は不要です。

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)				
(2) 事業内容				
事前計画(3/5)を振り返り、自己評価を実施してください。				
(3) 達成目標	事業の実施結果	【指標】 1. 報告書配布数 2. 調査報告会開催数	【目標値】 1. 1,000冊 2. 2回	【具体的内容】 1. 事業終了後開催予定の調査報告会及び、県内小学校(570校)に配布。 2. 事業終了翌月に2回開催。
	事業の成果・波及	【指標】 利活用予定	【目標値】 70%	【具体的内容】 報告書配布後、報告書に対するアンケートを実施し、今後調査結果を活用する可能性を調査。
	事業の結果	【指標】 1. 報告書配布冊数 2. HP掲載回数 3. 機関紙への掲載回数	【目標値】 1. 1,000冊 2. 1回 3. 1回	【具体的内容】 1. 報告書を県内全小学校及び調査報告会参加者に配付。 2. 会員及び法人HPを訪れた全ての人が報告書を閲覧可能となるよう、調査結果を法人HPに掲載。 3. 法人機関紙に調査結果を掲載。
(4) 情報発信	競輪・オートレース補助金による事業であること	【指標】 1. 報告書配布冊数 2. HP掲載回数 3. 機関紙への掲載回数	【目標値】 1. 1,000冊 2. 1回 3. 1回	【具体的内容】 1～3。 上記の情報発信時には、常に競輪の補助金による事業であることを明示。
	(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入			
外部専門家(〇名)、法人役員(〇名)、実施責任者(1名)等による委員会において自己評価を実施。自己評価結果は当会HPにて公表。				

自己評価書に関するお問い合わせは、以下へお願いします。
補助事業部 企画・評価課
tel：03-3512-1279
E-mail：m26hyoka@keirin-autorace.or.jp
(振興事業補助)
E-mail：p26hyoka@keirin-autorace.or.jp
(事業費・新世紀未来創造プロジェクト・東日本大震災復興支援)

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価Ⅰ [事業終了直後に、(2)個別項目の評価から実施]				
事業全体についての意見・所感	この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。 (3/5)の目標値「1. 1,000冊」に対する (4/5)の達成値「1. 1,200冊」の割合 ↓ 達成値／目標値＝達成状況 1,200冊／1,000冊＝120%			注4 指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点をつけてください。 (例)1. 5点(達成状況120%) 2. 4点(達成状況100%) 3. 1点(達成状況0%) (5点+4点+1点)/3 = 3.33 ≒ 4点 ※割り切れない場合は整数に切り上げてください。
優れている点・課題、改善すべき点				
その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点				
② 自己評価Ⅱ				
補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望	注9			
達成目標	① 自己評価Ⅰ	【達成値】	【達成状況】	【具体的内容】
	事業の実施結果	1. 1,200冊 2. 2回	1. 120% 2. 100%	1. 事業終了後開催予定の調査報告会及び、県内小学校(570校)に配布。調査報告会の参加者が見込みより増えたため、配布冊数も増加。 2. 事業終了後〇月〇日及び△日に予定どおり開催。
	事業の成果・波及	80%	114%	報告書配布後、報告書に対するアンケートを実施し、今後調査結果を活用する可能性を調査した結果、100%が今後授業等に活用する回答。
情報発信	① 自己評価Ⅰ	【達成値】	【達成状況】	【具体的内容】
	事業の結果	1. 1,200冊 2. 1回 3. 0回	1. 120% 2. 100% 3. 0%	1. 報告書を県内全小学校及び調査報告会参加者に配付。 2. 会員及び法人HPを訪れた全ての人が報告書を閲覧可能となるよう、調査結果を法人HPに掲載。 3. 未実施だが、△月△日掲載予定。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	1. 1,200冊 2. 1回 3. 0回	1. 120% 2. 100% 3. 0%	1～3。 上記の情報発信時には、常に競輪の補助金による事業であることを明示。
① 自己評価Ⅰ 自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入				
注8				

- 注1 達成値＝実績値です。事前計画(3/5)で設定した目標値と同じ単位のものが入ります。
- 注2 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合をパーセンテージで記入してください。
- 注3 実績の具体的内容を記入してください。また、達成値、達成状況が数値で表せなかった場合ややむを得ずスコアリングガイド通りには採点を行わなかった場合などは、その根拠を具体的に記入してください。
- 注4 P22.23のスコアリングガイドを基に採点してください。
- 注5 自己評価(1回目)実施時に記入してください。結果が出ていない場合も、その時点での状況を記入してください。
- 注6 情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。
- 注7 その事業が競輪またはオートレースの補助金を得て実施されたものであると明示して情報発信した内容の概要、使用した媒体、発信を行った日付等を記入してください。
- 注8 自己評価の具体的な方法や手順、評価結果を公表したか否か、構成に第三者(外部委員など)が入ったのであればその旨記入してください。
- 注9 自己評価(2回目)実施時点で、事前計画(2/5)に記載した「補助事業が最終的に目指すこと」の達成状況と、そう判断した根拠を併せて記入してください。※自己評価(1回目)実施時点での記入は不要です。

4. 補助事業の事前計画

補助事業				
(1) 受益者 (ニーズ)				
(2) 事業内容	事前計画(3/5)を振り返り、自己評価を実施してください。			
(3) 達成 目標	事業の 実施 結果	[指標] 〇〇出力量	[目標値] 500～600	[具体的内容] 〇〇〇により、〇〇の〇〇出力量が500～600となる。
	事業の 成果・ 波及	[指標] 学会発表	[目標値] 2件	[具体的内容] 昨年の研究内容とあわせ、平成26年11月〇〇学会秋季大会及び平成27年7月△△学会にて発表。
(4) 情報 発信	事業の 結果	[指標] 1. パネル展示回数 2. HP掲載回数 3. 学会発表回数	[目標値] 1.1回 2.2回 3.1回	[具体的内容] 1. 平成26年〇月オープンキャンパス時にパネル展示を行う。 2. 〇〇研究の中間報告と最終報告をHPに掲載する。 3. 昨年の研究内容とあわせ、平成26年11月〇〇学会秋季大会にて発表を行う。
	競輪・オート レース補助 金による 事業である こと	[指標] 1. パネル展示回数 2. HP掲載回数 3. 学会発表回数	[目標値] 1.1回 2.2回 3.1回	[具体的内容] 1～3. 上記1～3.に併せ、オートレースの補助金による事業である旨を明示する。
(5) 自己評価の体制 ※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入				
成果を学会や〇〇展示会や説明会などで積極的にアピールし、企業との共同開発を行い実用化を目指す。				

補助事業部 企画・評価課

tel : 03-3512-1279

E-mail : m26hyoka@keirin-autorace.or.jp (研究補助)

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価 総

① 自己評価Ⅰ		② 自己評価Ⅱ		③ 自己評価Ⅲ		総合評価点
事業全体についての意見・所感	優れている点・課題、改善すべき点	その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望	事業の実施結果	事業の成果・波及	
<p>この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。</p> <p>(3/5)の目標値「2件」に対する(4/5)の達成値「1件」の割合 ↓ 達成値／目標値＝達成状況 1／2＝50%</p>				<p>注4</p> <p>指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点をつけてください。</p> <p>(例) 1. 4点(達成状況100%) 2. 1点(達成状況50%) 3. 4点(達成状況100%) (4点+1点+4点)/3=3点 ※割り切れない場合は整数に切り上げてください。</p>		採点
<p>注9</p>				<p>注1</p> <p>568</p> <p>100%</p> <p>注2</p> <p>〇〇〇により、〇〇の〇〇出力量が568となった。</p> <p>注3</p> <p>4</p>		採点
<p>注5</p> <p>1件</p> <p>50%</p> <p>注1</p> <p>注2</p> <p>注3</p> <p>1</p>				<p>※指標に合わせて文頭に付番し、箇条書きで記入してください。</p> <p>注4</p> <p>1</p>		採点
<p>① 自己評価Ⅰ</p> <p>事業の結果</p> <p>1.1回 2.1回 3.1回</p> <p>注1</p> <p>1.100% 2.50% 3.100%</p> <p>注2</p> <p>1. 平成26年〇月オープンキャンパス時にパネル展示を行う。 2. 中間報告は掲載したが、web担当者の連絡ミスで最終報告は未掲載。〇〇に掲板予定。 3. 平成26年11月〇〇学会秋季大会にて発表。</p> <p>注6</p> <p>注4</p> <p>3</p>				<p>採点</p>		
<p>情報発信</p> <p>競輪・オートレース補助金による事業であること</p> <p>1.1回 2.1回 3.1回</p> <p>注1</p> <p>1.100% 2.50% 3.100%</p> <p>注2</p> <p>1～3. 上記の情報発信時には、常にオートレースの補助金による事業であることを明示。</p> <p>注7</p> <p>注4</p> <p>3</p>				<p>採点</p>		
<p>① 自己評価Ⅰ</p> <p>自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入</p> <p>注8</p> <p>〇〇〇〇と〇〇〇〇の共同開発を行うこととなった。ゆくゆくは〇〇〇〇の実現に貢献すると思われる。</p> <p>注4</p> <p>4</p>				<p>採点</p>		

注2 事前計画(3/5)の目標値に対する達成値の割合をパーセンテージで記入してください。

ハ、実績の具体的内容を記入してください。また、達成値、達成状況が数値で表せなかった場合ややむを得ずスコアリングガイ

注4 P24.25のスコアリングガイドを基に採点してください。

[illegible]

注9. 情報発信の定義の概要。佐田の提供は、発信が行われる日付等を記すことがない。

、その事業が競輪またはオートレースの補助金を得て実施されたものであると明示して情報発信した内容の概要、使用した

研究成果の活用方法を具体的に記述し、必要に応じて、自己評価の項目に付随して「成果の活用に関する事項」の場合は、

白川邸内(2回目)史跡時より、東武東上線(9/5)に記載した「雑貨事業が最終的に目標とした」達成状況による判断」を

5. 補助事業の自己評価

(1) 総合評価

① 自己評価

事業全体についての意見・所感

優れている点・課題、改善すべき点

その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点

② 自己評価

補助事業が最終的に目指すこと(課題の解決等)の達成状況及び今後の展望

注9

この場合の達成状況の算出方法は以下の通りとなります。

(3/5)の目標値「1日平均15名」に対する
(4/5)の達成値「1日平均13名」の割合
↓
達成値／目標値＝達成状況
 $13 \div 15 = 86.7\% \approx 87\%$

注4

指標が複数ある場合は、指標ごとにそれぞれ評点を付け、複数の指標の評点を平均して項目の評点をつけてください。

(例) 1. 1点(達成状況50%)
2. 4点(達成状況100%)
3. 1点(達成状況0%)
4. 4点(達成状況100%)
(1点+4点+1点+4点)/4=2.5≒3点
※割り切れない場合は整数に切り上げてください。

	【達成値】	【達成状況】	【具体的内容】	採点
達成目標	① 自己評価 I 事業の実施結果 平成24年4月	注1 100%	注2 予定どおり平成27年3月上旬に施設が完成し、4月から開設となった。	注3 注4 4
	注5 事業の成果・波及 1日平均13名	注1 87%	注2 4月1日より、平日常利用者数が増えたと。18名になる日もあったと、出だしは好調であった。	注3 注4 3
情報発信	① 自己評価 I 事業の結果 1. 1回 2. 1回 3. 0回 4. 1回	注1 1. 50% 2. 100% 3. 0% 4. 100%	注2 1. 工事には拘束を受けたが完成後拘束を仮放免したため、今後予定。(C月頃) 2. 法人HP上に事後報告に必要事項を掲載したが、法人側確認や完結後の施設稼働開始が遅れたため、印刷が遅れ完了報告書提出時までに発行できなかった。(△月発行予定) 3. 完成後福祉新聞に掲載した。(□月□日)	注6 注4 3
	競輪・オートレース補助金による事業であること 1. 1回 2. 1回 3. 0回 4. 1回	注1 1. 50% 2. 100% 3. 0% 4. 100%	注2 1~4. 上記の全てで、当該事業は競輪の補助金を受けて実施したものである旨を明示した。	注7 注4 3
① 自己評価 I 自己評価の体制※研究補助の場合は、「成果の利活用方法」を記入				注8 2人、地域住民2人、施設関係者2人で構成される評価委員会を×月×日開催し、自己評価を行った。法人HP上で一部公開された。

注8

2人、地域住民2人、施設関係者2人で構成される評価委員会を×月×日開催し、自己評価を行った。法人HP上で一部公開された。

自己評価書に関するお問い合わせは、以下へお願いします。
補助事業部 企画・評価課
tel : 03-3512-1279
E-mail : p26hyoka@keirin-autorace.or.jp (施設の建築・補修)

<交付申請>

JKA補助事業 平成26年度 事前計画／自己評価書(5／5)

(3) 事業の促進・阻害要因の自己分析 (① 自己評価 Iに併せて実施してください。)

● 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を(a) 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを(b) 欄に、要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。

該当する場合は、セルのプルダウンから、「＊」を選択してください。

阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記し、その理由をご記入ください。

事業終了後に自己評価を実施してください。	事業の促進・阻害要因の自己分析					
		促進	阻害	要因分類	(a) 促進または阻害要因の具体的な内容	(b) 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
	内部要因			(1) 経費	(2)事前計画では、4月に実行委員会を立ち上げ、月2回の委員会開催を予定していたが、当団体理事長が急遽変更になったため実行委員会の立ち上げが5月になってしまった。 (5)先進地域の視察を行いアドバイスを受けたことで、スムーズに運営を行う事が出来た。	(2)事業完了が予定より1ヶ月延びることになったが、実行委員会を集中的に開催し、高い協力体制で事業を推進した。
			＊	(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
				(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
				(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
		＊	(5) 事業運営のノウハウ(進捗管理、資金管理等)			
				(6) 設計仕様の変更(主に建築)		
				(7) その他		
	外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ	(9)地域内の2カ所のスポーツクラブ、及び障がい者支援組織と連携し参加者募集を行う事で、当初の計画以上に数多くの場所と人に開催告知を行う事が出来、昨年よりも参加者が増加した。	
		＊	(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援			
				(10) 関連法制度の変更		
				(11) 利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
				(12) 災害の発生(地震、洪水等)		
				(13) 同様の技術開発		
				(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他			
		(16)				

(1) 左ページの記入例を参考に、事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因の自己分析を実施し、「事前計画／自己評価書(5／5)」に記入してください。
(自己評価にあたってはP4～6の「Ⅲ 自己評価の実施」もご参照ください。)

※ 1回目の自己評価に併せて実施してください。

(2) 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「＊」を記し、要因の内容を(a) 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを(b) 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的に記入してください。

(3)促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「＊」を記してください。

※該当しない要因については記入は不要です。

該当すると思うものにのみ「＊」を記し、該当番号を文頭に付して、右枠内に具体的内容を記入してください。

V 平成26年度 JKA補助事業「自己評価スコアリングガイド」

標準※研究補助除く

《 計画通り、問題なく事業が実施でき、予定通りの成果が上げられれば、評価点は「4」点となります。》

総合評価		5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
		4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
		3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
		2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつもの課題が残った。
		1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。
(1) 受益者（ニーズ）		5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。
		4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。
		3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。
		2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
		1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。
(2) 事業内容	事業の新規性 (新たな発想による、または新分野への取り組み)または継続の必要性	5	【新規性】 事前計画で予定した以上の新規性があった。又は他にない取組を行うことができた。 【継続の必要性】 事前計画で想定した以上の必要性があった。
		4	【新規性】 事前計画で予定した通りの十分な新規性があった。 【継続の必要性】 事業計画で想定した通りの十分な必要性があった。
		3	【新規性】 事前計画の予定を下回ったが、ある程度の新規性はあった。 【継続の必要性】 事業計画の想定を下回ったが、ある程度の必要性があった。
		2	【新規性】 新規性は乏しかった。 【継続の必要性】 必要性は乏しかった。
		1	【新規性】 新規性は無かった。 【継続の必要性】 必要性は無かった。
	事業の発展性 (事業完了後に想定される効果等)	5	事前計画の想定を上回る、具体的な効果等があった。
		4	事前計画の想定通りの、具体的な効果等があった。
		3	事前計画の想定は若干下回ったが、具体的な効果等があった。
		2	事前計画で想定したレベルにはまだ至っていないが、具体的な効果等が発現する十分な見込みがある。
		1	具体的な効果等の発現は難しい。
	実施計画・体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
		4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
		3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
		2	事前計画に不十分な部分(実施手法・スケジュール・コスト・体制)があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
		1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加が生じた。【事前計画の50%以上の増加】またはスケジュールの大幅な遅延(事業の完了が平成 27 年3月31日を越える)が生じた。

標準※研究補助除く

《 計画通り、問題なく事業が実施でき、予定通りの成果が上げられれば、評価点は「4」点となります。》

(3) 達成目標	事業の実施結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	事業の成果・波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
		4	事前計画の目標値を達成(達成状況100%以上～120%未満)することができた。または、目標値をやや下回った(達成状況80%以上～100%未満)が、想定外の成果の波及効果があった。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、想定外の成果の波及効果があった。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
(4) 情報発信	事業の結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。(表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど)
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	競輪・オートレース補助金による事業であること	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関(新聞等)に大きく取り上げられた。
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	(5) 自己評価の体制	5	外部委員が参加する評価委員会で評価が実施され、記録(議事録)から評価過程等が確認できる。
		4	団体内部に組織された評価委員会で評価が実施され、記録(議事録等)から評価過程等が確認できる。または、委員会形式ではないが、何らかのかたちで利用者や参加者などの幅広い関係者、外部の第三者が加わった評価を実施し、記録(議事録等)から評価過程等が確認できる。
		3	委員会形式ではないが自らの事務局内部に組織上の評価体制があり、記録(議事録等)から同体制で実施された評価過程等が確認できる。
		2	本事業の担当者が単独で評価し、団体責任者が決裁するなど、評価について議論する場が設定されていないが、評価過程等が記録で確認できる。
		1	担当者のみで評価した。または、議事録など、評価の実施過程等を示す記録がない。

《 計画通り、問題なく事業が実施でき、予定通りの成果が上げられれば、評価点は「4」点となります。》

総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。	
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。	
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。	
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつもの課題が残った。	
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。	
(1) 受益者（ニーズ）	5	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した受益者を超えて、補助事業の効果が大きな広がりを見せている。	
	4	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、当該受益者のニーズに沿った適切な事業を実施することができた。	
	3	受益対象者、ニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該受益者のニーズにほぼ沿った事業を実施することができた。	
	2	受益対象者、ニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。または、受益対象者、ニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該受益者のニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。	
	1	受益対象者、ニーズの想定に大きな誤りがあった。または、受益対象者、ニーズの想定に誤りがなかったものの、本事業の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても当該受益者のニーズに対応することができなかった。	
(2) 事業内容	事業の新規性 (新たな発想による、または新分野への取組み)または継続の必要性	5	【新規性】 事前計画で予定した以上の新規性があった。又は他にない取組を行うことができた。 【継続の必要性】 事前計画で想定した以上の必要性があった。
		4	【新規性】 事前計画で予定した通りの十分な新規性があった。 【継続の必要性】 事業計画で想定した通りの十分な必要性があった。
		3	【新規性】 事前計画の予定を下回ったが、ある程度の新規性はあった。 【継続の必要性】 事業計画の想定を下回ったが、ある程度の必要性があった。
		2	【新規性】 新規性は乏しかった。 【継続の必要性】 必要性は乏しかった。
		1	【新規性】 新規性は無かった。 【継続の必要性】 必要性は無かった。
	事業の発展性 (事業完了後に想定される効果等)	5	事前計画の想定を上回る、具体的な効果等があった。
		4	事前計画の想定通りの、具体的な効果等があった。
		3	事前計画の想定は若干下回ったが、具体的な効果等があった。
		2	事前計画で想定したレベルにはまだ至っていないが、具体的な効果等が発現する十分な見込みがある。
		1	具体的な効果等の発現は難しい。
	実施計画・体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える事業を実施することができた。
		4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画(実施手法・スケジュール・コスト・体制)であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に事業を実施できた。
		3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく事業を実施できた。
		2	事前計画に不十分な部分(実施手法・スケジュール・コスト・体制)があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
		1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加が生じた。【事前計画の50%以上の増加】またはスケジュールの大幅な遅延(事業の完了が平成27年3月31日を越える(注1))が生じた。

〈注1〉複数年研究については、「事業の完了が平成**28**年3月31日を越える」とする。

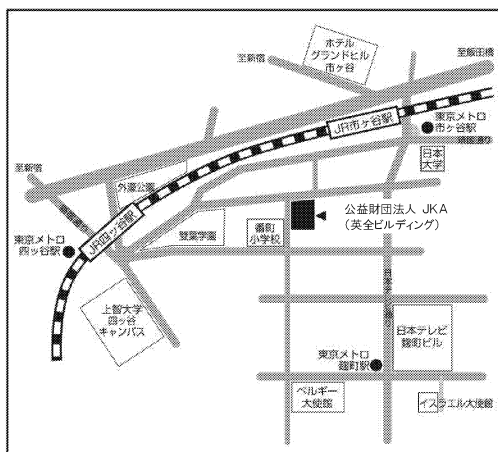
《 計画通り、問題なく事業が実施でき、予定通りの成果が上げられれば、評価点は「4」点となります。》

(3) 達成 目標	事業の 実施 結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	事業の 成果・ 波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
		4	事前計画の目標値を達成(達成状況100%以上～120%未満)することができた。または、目標値をやや下回った(達成状況80%以上～100%未満)が、想定外の成果の波及効果があった。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、想定外の成果の波及効果があった。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
(4) 情報 発信	事業の 結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。(表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど)
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	競輪・オート レース補助金 による事業 であること	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成することができた。【達成状況120%以上】 または、目標値の達成【達成状況100%以上】に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関(新聞等)に大きく取り上げられた。
		4	事前計画の目標値を達成することができた。【達成状況100%以上～120%未満】 または、目標値をやや下回った【達成状況80%以上～100%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		3	事前計画の目標値をやや下回った。【達成状況80%以上～100%未満】 または、目標値を下回った【達成状況60%以上～80%未満】が、追加的に、計画外の手法(自ら行うもの又は外部機関が行うもの)で広報を行うことができた。
		2	事前計画の目標値を下回った。【達成状況60%以上～80%未満】
		1	事前計画の目標値を大幅に下回った。【達成状況60%未満】 または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
	(5) 成果の利活用方法	5	事前計画の予定・想定を上回る、具体的な成果の利活用があった。
		4	事前計画の予定・想定通りの、具体的な成果の利活用があった。
3		事前計画の予定・想定は若干下回ったが、具体的な成果の利活用があった。	
2		事前計画の予定・想定した利活用にはまだ至っていないが、十分な見込みがある。	
1		具体的な成果の利活用の実現は難しい。	



RING!RING! プロジェクト

競輪 & オートレースの補助事業



問合せ先

公益財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

[補助事業部]

企画・評価課

TEL:03 (3512) 1279 FAX:03 (3512) 1274

問合せ時間 平日の9時30分 から 12時まで
13時 から 17時30分まで

JKA補助事業ホームページアドレス

<http://ringring-keirin.jp>